



八幡史子館資料

1

**八幡町**

千葉縣市原郡八幡町  
 兩國驛より二九哩二分（一時四三分間）  
 賃金 二等 壹圓五拾參錢 三等 七拾六錢  
 人力車十二輛 旅館 三 料理店

此の地は郡役所の所在地にして、戸數七三五戸、人口四千七百餘の市街地なり。東京、千葉、木更津、房州方面との交通も便利にして、殊に近年海水浴場、保養地として賑はひ、町内活氣を呈せり。

主なる官公署、會社、銀行、病院等  
 市原郡役所

2

八幡警察署  
 千葉區裁判所八幡出張所  
 千葉縣穀物検査所八幡支所  
 八幡郵便局  
 八幡町役場

金融機關  
 總武銀行八幡支店  
 第九十八銀行八幡支店

醫療機關  
 倉本病院（入院の設備完備し居れり）  
 波邊醫院  
 寺島醫院  
 東條醫院

主なる旅館

屋號	驛	人員	室數	宿泊料	食料
東屋	三丁	100	100	四、〇〇	一、五〇
白鳥	二丁	75	150	四、〇〇	一、五〇
會葉屋	二丁	25	50	三、〇〇	一、〇〇

貸問  
 疊一枚當一ヶ月貸問貳圓より參圓まで

主なる名物  
 蛤、蛸、佃煮

教育  
 八幡尋常高等小學校 職員一四、兒童七百餘、大正十四年新校舎建築

落成し設備充實せり。

私立南總學校 明治二十一年創立、中等程度の一般科目を教授し農村に於ける健實なる子弟養成所として發展しつゝあり。校長兼校長川上規矩氏の獨力經營に係り、現在職員七名、生徒三百名、修業年限は三ヶ年なり。

農業補習學校 八幡小學校に併置せらる。  
其他青年團、處女會も大いに發展しつゝあり。

◇ 産 業

農業、商業、市街地は商業區域をなし、其の他は概ね農業に従事し住民の七割を占む。主産物は穀物、蔬菜なり。

水産業 本町は西北方一帯東京灣に臨み、遠淺なるを以て貝類の養殖に適し、又近海の漁業盛んなり。目下漁業組合を設け、盛に水産養殖を經營しつゝあり。將來富源の開發に資するもの多大なるべし。水産製造品には佃煮、海苔等あり。

此の外賣立等の設もあり。潮干狩等としても近時都人士の來遊するもの頗る多し。  
工業 製油、醬油醸造等行はる。

◇ 交 通

鐵道北條線は千葉市より來り、本町を経て遠く安房郡鴨川驛に通ず。本町は郡内鶴舞町に至る縣道の起点たると、施政上の中心地たるを以て旅客の來往多く、貨物の運輸も亦少からず。

舟運の便亦多くして、東京方面との貨物の運輸は、海路此の地を経て行はるるもの少なしとせず。

郵便局は明治五年の創立に係り大正十二年度より町内電話も敷設せられたり。

◇ 名 勝 舊 蹟

史記6年 1465 97モリカ

海水浴場 驛より三町、翠松鬱たる八幡神社の森を後にし、鏡の如き東京灣を前にし、富士を望み、筑波を望む。海は遠淺にて波穏かに、魚貝の採取に適し、婦女子の游浴に佳なり。季節には休憩所、脱衣場の設備整へり。

八幡御所址 足利成氏、上杉氏と相闘きて東國大に亂れし時里見義實武田三河守等足利成氏を助けて上杉氏を滅ぼさんとし、其の次子義明の尙幼なるを奉じて寛政六年乙酉館を構造して之に居らしむ。この館を八幡御所といふ。後下總小弓御所に移ると雖も尙保存せらる。天文七年里見氏の北條氏と下總國府臺に戦ひ敗死するに及びて遂に廢せらるるといふ。其の遺址今何れなるやを知らざれども五所の地蓋し之ならんといふ。

白船城址 白木船山にあり。文明中三陸市原備前守眞常こゝに居り千葉康胤の子胤持等と兵を交へしと。

千葉氏の墓 八幡町無量寺境内に古塔三基並列す。傳へ云ふ千葉康胤全胤直全胤勝の墓なりと。康胤は滿胤の庶長子にして胤直の伯父なり。千葉介と稱し陸奥守となり下總馬加城に居る。足利成氏及原胤房等を助けて宗家たる胤直を攻めて之を殺し自ら千葉城により其の宗姓を冒す。後成氏敗れ胤直の黨なりし上杉房顯勢を得るに及び胤直の弟賢胤の子實胤及自胤を立て、市川城に據らしめ進んで康胤を攻む。康胤支ふる能はず城を捨て、走る。實氏等進んで兩總の境なる村田川に至る。康胤等今は通れぬ所となし奮戦の後遂に甲を脱し、立ち乍ら咽を貫きて死す。時に康正二年皇紀二一六一年十一月朔なりと。

厩塚 觀音町の北方海岸に近き所、俗に厩塚といふ塚あり。今は古松二三淋げに立てり。傳へ云ふ、千葉康胤の死体をこゝに埋めたるなりと。

◇ 神 社 佛 間

飯香岡八幡宮 停車場を去る一町、地域稍々高燥にして西内海に面し

て眺望絶佳、松樹鬱蒼として颯々たる天籟は神韻を帯び特に一老公孫樹は往時を語るに似たり。葛蔓生ひ茂れる林間より仄に白帆の隠見する蒼海は富岳によりて一段の景趣を添へ、南に五井岬ほの見えて水路極まるが如く、北かすかに千葉、幕張の丘陵を波上に望む風情真に愛すべし。されば遊覧地として四時杖を曳く者多く、春は梅の香に酔ひ、秋は紅葉を尋ぬべし。殊に避暑納涼の清遊地として附近に得難き勝地たり。

境内に一條の神瀧あり、名づけて清見の瀧といふ。暑中來りて浴する者多し。而して本社を表鳥居は近く東京灣に臨み筑波を右に、富士を左に海上無數の船舶は鳧鷗の戯るるが如く其の觀望極めて佳なり。

本社は天武天皇の白鳳三年勅令によりて創建し、朝廷の崇敬厚く祭時には親王を以て執行せられ一朝有事の時には必ず勅使を遣はされ御祈禱の事あり。源頼光、頼家、頼義、頼朝、足利義滿、義持、義政、義明、豊臣秀吉、徳川家康等武門武將の信仰厚く鎌倉以前は本社 of 造營は朝廷

に於て行はせられたり。

君が爲め今日植ゑそへし銀杏樹に

幾世經んども神やどるらん

これ往昔勅使秀滿卿公孫樹の一枝を手づから植ゑし時詠せられし歌にして、その公孫樹今は周圍五間餘。名づけて神木といふ。社殿の左にあるものこれなり。

寺院は町内十餘ヶ所あり、其の主なるもの妙長寺、圓頓寺、稱念寺、無量寺等にして就中無量寺は大字八幡宿にあり、白鳳年間の創建に係る古刹なり。境内に千葉氏の墓あり。

#### ◇ 將來の八幡

海水浴場として、保養地として、又東京方面より日歸り客の探涼地として、遊覧地として本町の前途は甚だ多望なり。産業方面にありては水産養殖最も有望なり。

ちりにける花のなごりの戀しきに

枝の濱邊を來て見つるかな (懷中抄)

(註) えだの濱とは今の八幡の地なるべし